

パブリックスペース。それは、みんなの場所。
だからこそ、改めて考えてみたい。

公園って誰のもの？



関わらずそれぞれに歴史を持っているのです。

ちなみに、風光明媚な景勝地として知られる千本浜公園は、明治40年に全国に先駆けて公立公園として開園しています。今でも公園北側入り口には元総理大臣の西園寺公望公によって当時の名称である「沼津公園」と揮毫された石柱が厳かに佇んでいます。

個性を活かすという考え

公園の整備がスタートした当初は、人々が暮らす場所のなかに、まずは緑地やオープンスペースの「量」を確保することが進められました。結果として、すべり台・砂場・ブランコと「公園三種の神器」と呼ばれる遊具を設置した公園が数多く登場することとなります。しかしながら、人口減少やライフスタイルの多様化、社会構造の変化を背景とし、画一的な利用を想定していた公園の姿から次のステージへの移行が唱えられるようになっていきます。

今では持続可能で活力あふれるまちをつくることや、周りに暮らす人たちの生活の質を高めることを目的に、公園の持つ魅力を最大限に活用することが求められています。そして、公園それぞれの個性を引き出すことによって、もっと地域に必要な財産となることが期待されています。

中央公園や愛鷹運動公園など、多くの人で賑わう場所だけでなく、いわゆる「近所の公園」にも、植えられている

花や利用する人、遊具のレイアウトや公園から見える景色など、それぞれに個性があることは間違いありません。市内どこを見ても、ひとつとして同じ公園はないのです。

そこで、沼津市では、行政だけではなく「それぞれの公園を利用する人たち」と手を取り、公園緑地が本来もっている機能や魅力を維持発展させていくことを目的に、全国的にみても先進的な「パークマネジメントプラン」を平成30年に策定しました。

公園の個性を活かすという考えで、

花や利用する人、遊具のレイアウトや公園から見える景色など、それぞれに個性があることは間違いありません。市内どこを見ても、ひとつとして同じ公園はないのです。

公園にもっと楽しさを

東京都豊島区の南池袋公園は、平成28年のリニューアルによって、公園を象徴する青々とした芝生が広がり、春



公園の現在

みなさんの住む場所の近くに「公園」はありますか？

NOと答える人はそれほど多くはないはずです。それもそのはず市内には151の公園緑地があり、そのほとんどは近くに住む人のために整備された小さな公園です。そんな小さな「近所の公園」が、近頃どのように利用されているかご存知ですか？

皆さんの住む場所の近くの公園は、手入れが行き届いて、子どもたちの声が響き渡り、地域の人たちがあいさつを交わすような憩いの場になっているでしょうか。

昭和31年に都市公園法が施行され、沼津に限らず全国的に多くの公園が整備されるようになりました。私たちの身近にある公園の多くは、その広さに

社会が変われば
公園も変わる。

公園って楽しい。
だから
いつまでも楽しく。

まちの魅力をプラスしていく。

には美しい桜が咲き誇る、豊島区の備蓄倉庫やおしゃれなカフェを併設した美しい公園となりました。リニューアルにあわせ、豊島区や近隣に住む人で組織された「南池袋公園をよくする会」による公園の運営がスタートし、平日でも多くの来園者で賑わい、それぞれに「楽しそう日常」を過ごす光景がみられるようになりました。

このような南池袋公園の「行政だけでなく、周りに住んでいる人や公園を使う人が中心となって、公園という場所を上手に活用していく」という仕組みは、パークマネジメントの先進例とされています。

美しい芝生や併設されたカフェがなくとも、そこに住む人たちの手によって個性が輝いている公園には人が集まり、人が集まる公園には笑顔が増える。笑顔が集まる場所は住みたいまちとなり、誇り高いまちとなるでしょう。

今回の広報めまづでは、公園を自分なりにうまく活用している人や愛されている公園の姿を紹介し、公園の持つ可能性をお伝えします。

皆さんにとっての「近所の公園」が、将来に渡って愛され、使われ、そして楽しくあり続けることで、沼津の公園がもっと楽しくなります。

さあ、一緒に公園の未来を考えていきましょう。